

令和5年度 文部科学省委託事業

学校安全総合支援事業 実践事例集



令和6年3月
福岡県教育委員会

はじめに

平成20年の学校保健法の一部改正により学校保健安全法が成立し、国は、平成24年度からの5年間を計画期間とする「学校安全の推進に関する計画」（以下、「第1次計画」という。）、平成29年度からの5年間を計画期間とする「第2次学校安全の推進に関する計画」（以下、「第2次計画」という。）を策定し、学校安全の推進に取り組んできました。

これまで、第1次計画及び第2次計画に基づいた取組が全国で進められてきました。しかし、様々な計画やマニュアルが整備されつつも必ずしも実効的な取組に結びついていないこと、地域、学校設置者、学校、教職員の学校安全の取組内容や意識に差があること、東日本大震災の記憶を風化させることなく今後発生が懸念される大規模災害に備えた実践的な防災教育を全国的に進めていく必要があること等の課題が指摘されています。

これを踏まえ、令和4年3月、令和4年度からの5年間を計画期間とする「第3次学校安全の推進に関する計画」が閣議決定されました。本計画では、学校安全に関する具体的な取組の推進と学校安全に関する社会全体の意識の向上を図るために5つの推進方策が示されています。

県教育委員会としましても、本計画に基づき、安全で安心な学校環境の整備や、組織的な取組を一層充実させるとともに、安全教育を通じ、児童生徒等にいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために自ら適切に判断し主体的に行動する態度の育成を図ることが重要であると考えております。

令和5年度は、これまでの成果を踏まえ、市町村教育委員会を中心とした学校安全の組織的取組や外部専門家の活用等を通じた学校安全体制の構築を推進するため、県内3市町教育委員会をモデル地域に指定し、取組を推進しました。

また、県立学校においては、高等学校1校、特別支援学校1校を実践校に指定し、学校種を超えて取組の成果を共有できるようにしました。

各市町村教育委員会及び学校においては、質の高い学校安全の取組を推進する上での参考として本実践事例集を活用されることをお願いします。

おわりに、本事業の推進にあたり、御尽力いただきました関係者の皆さまに感謝の意を表します。

令和6年3月 福岡県教育委員会

◇ 目 次 ◇

はじめに

事業報告 1

◇モデル地域及び実践校の取組概要

《モデル地域による取組》

◇久山町教育委員会

◇朝倉市教育委員会

◇大川市教育委員会

《実践校による取組》

◇県立筑紫中央高等学校

◇県立川崎特別支援学校

関係資料 15

◇久山町教育委員会

◇朝倉市教育委員会

◇大川市教育委員会

参考資料 29

◇学校安全の取組を推進する際に参考となる主な資料等

◇第3次学校安全の推進に関する計画

◇学校事故対応に関する指針

◇「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」の活用
について（依頼）

◇浸水想定区域・土砂災害警戒区域に立地する学校に関する調査の結果及び
水害・土砂災害対策の実施について（通知）

福岡県学校安全推進委員会委員名簿 75

1 事業報告

モデル地域及び実践校の取組概要	…P 2
○久山町教育委員会（山田小学校）	…P 4
○朝倉市教育委員会（杷木小学校）	…P 6
○大川市教育委員会（川口小学校）	…P 8
○県立筑紫中央高等学校	…P10
○県立川崎特別支援学校	…P12

モデル地域及び実践校の取組概要

【モデル地域】

久山町教育委員会	拠点校：山田小学校	実践領域： 交通安全・災害安全
1 教育委員会としてとらえる安全上の課題 <ul style="list-style-type: none">○ 児童生徒が自然災害を自分事としてとらえることができず、防災意識が高いとは言えない。○ 交通安全について、児童生徒の安全意識が高くないことが、学校安全教育上の課題の一つである。		
2 特徴的な取組 <ul style="list-style-type: none">○ 久山町幼・小・中学校区安全対策委員会で、安全教育の計画について学校と家庭、地域で協働的に推進することを確認した。横断歩道で停車した運転手に対するお辞儀の取組、児童生徒が考えた標語を用いたのぼり旗や看板の作成による交通安全啓発の取組を行った。○ 修学旅行における雲仙火砕流の被害にあった学校の見学や、スケアード・ストレート研修を取り入れるなど、安全教育の充実を図った。		

朝倉市教育委員会	拠点校：杷木小学校	実践領域：災害安全
1 教育委員会としてとらえる安全上の課題 <ul style="list-style-type: none">○ 東西約20kmと広域で、地形も山地から台地、低地と多様であるため、豪雨災害が起こっても災害の状況が異なる。拠点校の校区は、山地を有し、大雨になると土砂災害の危険性が高まる。一方、低地に位置する校区は近隣河川の氾濫により、浸水被害を受ける可能性がある。		
2 特徴的な取組 <ul style="list-style-type: none">○ 防災安全推進計画をもとに、防災・安全向上プラン、学校防災安全計画、安全教育に係る防災プログラムを立案し、安全教育の実施、評価・改善を行った。○ 「杷木小防災の日」を設定し、保護者への引渡し訓練等安全管理の充実に関する取組を行った。○ 県内の他自治体の受け入れや、東日本大震災の被災地域との合同研修を行い、中核教員の資質能力向上を図った。		

大川市教育委員会	拠点校：川口小学校	実践領域：生活安全
<p>1 教育委員会としてとらえる安全上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理に関して大きな改善を図っているが、市内外の小中学校へ広げることに関しては、十分とはいえない。 ○ 安全に関する思考力の育成や、関係機関と連携した取組が必要である。 ○ 学校安全を推進していく中核教員の育成が急務である。 <p>2 特徴的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中核教員の資質能力の向上のため、専門家を招いた安全管理研修会や安全学習研修会を実施した。 ○ 1月13日の大川市学校安全の日に向け、全学校において学校安全の日に向けた集会を実施。 ○ 関係機関、教育研究所、PTA連合会と連携して、防犯に係る取組を推進した。 		

【実践校】

県立筑紫中央高等学校	実践領域：交通安全
<p>1 安全上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通学に自転車を利用している生徒がおよそ7割在籍している。 ○ 学校周辺は住宅街で、危険・交通混雑箇所が多く存在する。 <p>2 特徴的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生オリエンテーションにて、登下校中の交通マナー及び自転車乗車マナーについて指導した。 ○ PTA・警察合同「安全下校推進運動・挨拶運動」を実施した。 	

県立川崎特別支援学校	実践領域：生活安全
<p>1 安全上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の危機管理意識及び児童生徒自身の安全に対する意識の向上 ○ 不審者侵入対策の更なる強化 <p>2 特徴的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防犯カメラやセンサーライトの複数設置等、施設の整備・改善を図った。 ○ スクールサポーターや警察と連携し、避難訓練や防犯教室を実施した。 	

久山町教育委員会

教育委員会名：久山町教育委員会

住 所：糟屋郡久山町大字久原 3632 番地

電 話：092-976-1111

○モデル地域の現状と取組

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状

○モデル地域名：久山町（交通安全、防災教育）

○学 校 数：幼稚園 1園 小学校 2校

中学校 1校

(2) モデル地域の安全上の課題

福岡県は他県に比較して自然災害が少なく、久山町は自然豊かで1万人以下の小さな自治体のため、防災意識が高いとは言えず、交通安全についても児童や生徒の安全意識が高くないことが、学校安全教育上の課題の一つとなっている。中学校は、一部の生徒が自転車通学をしている。



停車した運転手に対するお礼のお辞儀は、町内の小中学校で以前から取り組み、横断歩道での停車率が高く、児童生徒の安全な横断につながっている。

○児童生徒の交通安全標語のぼり旗と看板の作成と活用(町内道徳推進運動で交通安全啓発)

2 モデル地域の事業目標

防災教育の重要性の啓発と取組の推進、登下校の交通安全について、学校運営協議会や久山町幼・小・中学校区安全対策委員会を中心に、学校と家庭、地域、関係機関で連携して児童生徒の安全を守る取組を行う。



児童生徒の交通安全意識を高めるために、交通安全に関する標語を募集し、優秀作品でのぼり旗15本、看板8点を作成した。のぼり旗は上の写真のように町内道徳推進挨拶運動の際に児童生徒が持って挨拶をすることで、交通安全意識を高めている。また、小中合同で地域の方も挨拶運動をしているため、交通安全の啓発が地域に広がっている。

3 取組の概要

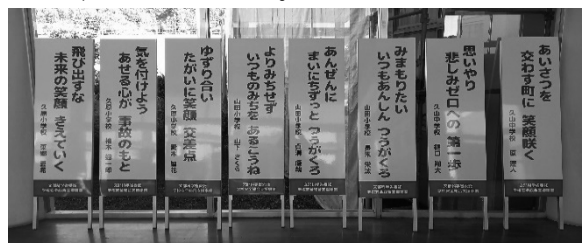
(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

安全・防災教育担当者に年間計画を立てさせ職員会議で周知する。小・中学校担当者をはじめ学校運営協議会員で構成する「学校安全実践委員会」(右写真)で計画の協議。更に、久山町幼・小・中学校区安全対策委員会で、安全教育の計画について学校と家庭、地域で協働的に推進することを確認。以下の取組を実施。



○横断歩道で停車した運転手に対して児童生徒によるお礼のお辞儀の奨励



交通安全標語看板は、8つの公民館に設置し地域への交通安全意識の啓発を図る。

○教職員と保護者、地域による「熟議」を実施

児童を守るためにできることをそれぞれの立場で「えんたくん」を使って協議した。



○町内幼・小・中学校の担当者に向けた防災教育の授業公開(山田小安全・防災教育担当者)



久山町防災官

久山町防災官には、学校安全実践委員会に参加してもらい指導助言や評価をして頂いている。
○修学旅行(6年生)で雲仙火砕流の被害にあった大野木場小学校の見学



火砕流で被災した小学校の見学により自然災害の恐ろしさを間近で学ぶことができた。

○小中学校合同でのスケアード・ストレート研修(スタントマンによる事故再現)の実施



イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

学校安全実践委員会などでの専門家による指導助言。右写真は、福岡教育事務所担当指導主事による指導助言。



児童生徒、保護者アンケートや児童生徒の振り返りの場を設定。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

- 地域見守り隊による登下校の見守り活動
- 糟屋区 PTA 指導者研修会で防災についての講演会を開催



【「歌う防災士しほママ」による講演の様子】

- 毎月20日の道徳推進挨拶運動で、学校、PTA、地域による登校時の見守り活動実施

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

- 町内幼・小・中学校の担当者に向けた山田小学校での防災教育の授業公開及び協議会
- 全国学校安全教育研究発表会(東京都葛飾区花の木小学校)へ本校教職員2名と久山町教育委員会指導主事1名計3名の参加

4 取組の成果と課題

【成果】

○本事業の交通安全標語募集とのぼり旗と看板の作成やスケアード・ストレート研修によって、小・中学校3校で交通安全について児童生徒の安全意識の啓発を行うことができた。

○学校安全実践委員会(「熟議」を含む)で、学校での取組を家庭や地域に広げ、さらには家庭や地域と協働して児童生徒の安全を守ろうという機運が高まった。

○糟屋区PTA指導者研修会で「防災」についての講演をすることで、町内だけでなく、糟屋区全体へ防災意識の啓発をすることができた。

【課題】

●小・中学校3校で取組を行ったが、独自で取組の評価をしているため、共通の評価方法の検討が必要である。

朝倉市教育委員会

教育委員会名：朝倉市教育委員会

住 所：朝倉市甘木 198-1

電 話：0946-22-2333

○モデル地域の現状と取組

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状

○モデル地域名：朝倉市

○学 校 数：小学校 11校 中学校 6校

(2) モデル地域の安全上の課題

拠点校（杷木小学校）の所在する杷木地区については、平成29年7月、九州北部豪雨において甚大な被害を受けた。特に統合前の松末小学校校区については、土砂災害によって多数の家屋、人命が奪われるなど、被害が著しく、災害から7年経過した現在でも復旧・復興に向けた取組が行われている。

朝倉市は東西約20kmと広域で、地形も山地から台地、低地と多様であるため、豪雨災害が起こっても災害の状況が異なる。拠点校となる杷木小学校校区は、山地を有し、大雨になると土砂災害の危険性が高まる。一方、低地に位置する大福小学校校区、蜷城小学校校区は近隣河川の氾濫により、浸水被害を受ける。

杷木小学校が北部豪雨から積み上げてきた防災安全教育を他の校区へと広げることで、それぞれの地域に応じた児童生徒自身の災害に対する危険回避能力を高めるとともに、保護者、地域と連携した防災力の向上を図る必要がある。

2 モデル地域の事業目標

○地域内各学校の危機管理対応マニュアル等について、専門的な知見をもとに見直しを図り、安全性や再現性が更に高いものへと改善する。

○児童生徒が災害安全等に対する正しい知識を身に付けるとともに、学校や校区における危険に対して主体的に向き合おうとする姿を目指す。

○児童生徒の実践力の向上につながる安全教育を実現するために、カリキュラム・マネジメントの視点から安全教育の年間指導計画を見直す。

3 取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

拠点校である杷木小学校では、防災安全教育推進計画をもとに、防災・安全向上プラン、学校防災安全計画、安全教育に係る防災プログラムを立案し、安全教育の実施、評価・改善を行っている。

(ア) 防災安全教育推進計画

防災安全教育目標は、以下のようである。

- ・自然災害の現状や原因について理解を深めることができる。(知識・理解)
- ・自他の命を尊重し、守ろうとする態度を持つことができる。(意識・意欲・態度)
- ・自他の生命を尊重し、災害に対して的確な思考・判断をし、行動することができる。(思考力、判断力、表現力)

また、本年度の重点目標や重点目標に対するめざす子供像を低・中・高学年で段階的に設定している。

(イ) 防災・安全向上プラン

防災安全教育目標を達成するために、中期目標、短期目標、合言葉を設定し、杷木小防災の日の取組と横断的カリキュラムの工夫の両方から、防災・安全教育の実施計画を構造的に示している。令和5年度の合言葉は、『気づき 考え 行動する』実践的防災力アップ!』である。

(ウ) 学校防災安全計画

安全教育を日常的な取組とするために、学校安全目標と毎月の重点目標を設定している。また、「いつ、誰が、何を行うのか」について、学校行事、安全管理、安全教育、組織活動の項目で整理している。

(エ) 防災プログラム

1年生から6年生までの発達段階に応じて、守る（生命尊重）、備える（災害の知識、災害への備え、防災意識・判断力、安全行動）、つながる（郷土愛）で構造的に整理し、横断的な取組となるよう整理している。その中で、中心となる取組が、毎月5日の「杷木小防災の日」であ

り、避難訓練を含む安全教育を計画的に実施している。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

教職員の意識、子どもの意識、保護者・地域の意識については、学期に1回の評価を行っている。

また、3者の評価結果をもとに、取組の成果と課題、課題に対する原因を明らかにし、改善策を見出す研修を実施している。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

ア 杷木小防災の日（引き渡し訓練）

杷木小学校では、毎月5日を「杷木小防災の日」として設定し、防災安全教育を推進している。6月には、小中合同での引き渡し訓練を実施した。令和5年7月10日の大雨により、杷木校区の通学路が土砂災害で通行止めになったり、中学校の武道場が浸水したりする等の被害がでた。この日の状況をもとに、保護者への引き渡しに関してPTA運営委員会で協議する場を設けた。ここでは、警戒レベル3での引き渡しの実施や引き渡しの順路、避難場所等に関する様々な意見が出て、現在も検討を重ねている。

イ 地域コミュニティとの連携

校区に4つのコミュニティがあることから、災害時における対応について共通理解を図る必要性があった。そこで、校長が定期的にコミュニティ会議へ出席し、災害情報を早急に共有する必要性や保護者への引き渡し方法、学校が避難所となった場合の対応等について、協議を重ねている。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

ア 北九州市教育委員会の訪問対応

8月に北九州市の防災教育推進モデル校の教職員、児童生徒、教育委員会等の訪問対応を行った。ここでは、本市の安全教育中核教員の代表である杷木小学校教頭が対応した。内容としては、九州北部豪雨（平成29年7月）当時の映像資料の提示、被災から復旧・復興までの過程について資料をもとに説明を行った。その後、甚大な被害を受けた松末小学校（現在廃校）を見学した。対応を行った中核教員は、災害を風化させることなく、被災した際に自分の命を守るために必要な資質・能力を子供に身に付けさせる安全教育の必要性について再認識することとなった。

イ 宮城県多賀城市天真小学校との研修

杷木小学校の職員、地域ボランティア、教育委員会が参加し、東日本大震災に見舞われた天真小学校とのオンライン研修を10月に行った。内容としては、被災の現状、被災時の学校の対応等であった。天真小学校の取組を杷木小学校の防災の日の取組と比較しながら研修することで、教職員の防災に対する意識を高めることができた。特に、避難訓練や引き渡し訓練に対する教職員や児童生徒の意識の高さ、被災後の心のケアについて、本市の安全教育に関する啓発及び取組の改善点を見出すことができた。



写真1 宮城県多賀城市天真小学校とのオンライン研修

ウ 市内小学校教頭会での研修

現在の対応マニュアルでは実効性が十分ではないという本市の課題を改善するために、中核教員である市内小中学校の教頭に対して、5月から継続的に協議を行った。本年度は、風水害対応マニュアルに特化して取組を進めた。主な取組としては、実態アンケートの実施、結果に対する原因分析、市内統一のマニュアル作成である。この取組を通して、各学校の実態に即した課題の明確化、被災時に必要な考え方、日常の安全教育の必要性について共通理解を図ることができた。

4 取組の成果と課題

【成果】

- 防災教育に関する研修会や引き渡し訓練後の小中での検討会を通して、タイムラインを意識した対応、避難に関する判断を早急かつ的確に行う情報共有の大切さをもつことができた。
- 小中の中核教員で対応マニュアルの作成をすることで、実効性のある仕組みづくりができた。

【課題】

- 地域で自分たちの命を守るという安全教育及び避難に対する教職員、地域・保護者の意識向上。
- 風水害以外の対応マニュアルの作成・周知。

大川市教育委員会

教育委員会名：大川市教育委員会

住 所：福岡県大川市大字酒見 256 番地 1

電 話：0944-85-5614

○モデル地域の現状と取組

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

平成29年1月の本市小学校での学校事故を受け、安全管理に関して大きな改善を図っている。しかし、市内外の小中学校へ改善された安全管理のよさを広げることに関しては、まだまだ十分とはいえない。また、安全指導に関しては、教師主導による安全指導も見られ、主体的に知識や技能を生かしたり、安全に関心をもち積極的に安全をつくろうとしたりする思考力の育成に関しては課題があると考え。また、地域と連携した安全に対する組織的な活動については、地域学校協働活動での見守り活動を中心に積極的に行われているが、関係機関と連携した取組が必要と考える。さらに、学校安全を推進していく中核教員の育成も急務である。

2 モデル地域の事業目標

学校の安全教育や安全管理、安全に対するの組織活動について実践を交流し、お互いの実践のよさと課題を明確にし、各校のよさを取り入れたり共通実践を行ったりして学校安全推進体制の充実を図る。

3 取組の概要

(1) 安全教育充実に関する取組

ア 安全教育が充実する取組

カリキュラム・マネジメントにより教科、特別活動、道徳科、総合的な学習の時間を総合単元的な学習として関連させて取り組んでいる。カリキュラム・マネジメントにより関連化させて学習に取り組ませることで実践意欲、実践力につながった。実践例は、拠点校の取組に掲載している。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

(7) 学校運営協議会、地域住民による評価

学校運営協議会委員や地域住民に実践委員として参加していただき地域の防犯や学校の生活安全に関する情報交換を行うとともに取組に対して評価していただいている。

(4) 地域の安全にかかわる組織による評価

地域の組織である「かわぐち安心のまちづくり推進会議」の会長に実践委員会の委員として参加していただき安心なまちづくりに取り組んでいる立場から子供たちの学習に参加していただいたり、防犯についての取組

を評価していただいたりして次年度の取組の見直しを図るようにしている。

(2) 組織的取組による安全管理充実に関する取組

拠点校を中心に年3回、保護者による安全点検を実施している。また、学校で行った安全点検表は、学習参観やPTA総会、PTA運営委員会等、保護者が来校される時に公開し、点検結果等の質問に応じるようにしている。拠点校以外の学校でも少しずつ保護者による点検等の取組が広がっている。

関係機関との連携では、NPO法人等の安全管理に関する研修会に参加し、安全点検表等の見直しに生かすことができた。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

ア 学校安全実践委員会の開催

中核教員の資質能力向上と各学校の取組のよさを広げるために安全教育、安全管理、組織活動や研修の内容について研修会や協議を行った。

(7) 専門家招聘による安全管理研修会実施

拠点校の安全点検の様子を実際に市内の学校安全の中核となる教師が参観し、専門家に質問をしたり助言をいただいたりした。今回参観した安全点検の場所は、運動場、体育館、教室、廊下である。いずれも利用が多く、これまで全国で重大な事故が報告された箇所である。専門家からは、消費者庁が3月に発出した学校安全に関する見解等もふまえ解説や指導をしていただいた。各校の中核教員は、自校の安全点検と比べながらよりよい安全点検の方法について考えを深め、自校の安全点検を見直すことにつながった。



(イ) 安全学習についての協議と指導主事の指導助言による安全学習研修会の実施

拠点校の安全学習を参観し、どのように安全学習を計画実践していくか中核教員と拠点校職員でグループ協議を行った。最後に、福岡県教育庁南筑後教育事務所の指導主事から指導助言をいただいた。安全学習を実施する上でのカリキュラム・マネジメントの視点や地域の安全に関わる人材の活用等について研修を深めることができた。各学校での実践の参考となる研修会となった。また、学校安全実践委員会のメンバーには、地域の方も入っていただいているので地域の方がどのように学校とともに安全に取り組んでいくか助言をいただき、一緒になって安全で安心なまちをつくっていかうという意欲を高める姿が見られた。

(ウ) 学校安全実践委員会による学校安全に関する協議

1月13日の大川市学校安全の日に向けてどんな取組を実施していくと、より児童生徒、教職員にとって安全への意識を高められるか協議を行った。各学校で学校安全の日の取組を中核教員が中心となって実施していく意欲を高めることができた。また、本年度発行する学校安全リーフレットの内容についても検討を行っている。

(4) その他の主な取り組みについて

ア 拠点校を中心にした取組について

(ア) 安全学習に関する取組

No	学年	教科等	単元名・教材名	関連
1	1	学活	休み時間を安全にすごそう	生・道・行
2	3	総合	自分たちでつくろう安全をⅠ	社・行
3	4	総合	自分たちでつくろう安全をⅡ	国・学・行
4	5	学活	情報モラルを身につけよう	社・総・道
5	5	体育	けがの防止	国・道・総・行

《第3学年「自分たちでつくろう安全をⅠ(防犯)》

青パトや見守り隊など地域の安全安心のために活動したり設備を設置したりしている



人々の取組やその思いを調べ、安心安全マップにまとめ、下級生に伝える学習を行った。そして自分たちで安心安全なまちをつくっていかうという実践力を高めることができた。

《第4学年「自分たちでつくろう安全をⅡ

(生活安全)」～VR機器の活用～》

校舎内で、特に行動が要因でけがにつながる箇所がないか調べた。自分たちの行動で安全な場所が危険に変わることへ気づき、それを啓発するためにVR映像を作成し、紹介することで、よりみんなの安全な行動につながると考え実践を行った。VR映像を作成することを通して普段何気なく通っている箇所に潜むたくさんの危険を見つけ出すことができた。普段生活している場所が安全かという観点で見直しその危険性について判断する力を高めた。



(イ) 関係機関との連携による防犯の取組

《防犯講習会と青色パトロールの防犯活動》

P T Aの運営委員と生活指導委員会、ボランティア希望の保護者で校区の安全の組織である「かわぐち安心のまちづくり推進会議」と連携して防犯について講習を受け、年間を通して防犯パトロールを行うことにつながった。P T Aで取組が地域にある安全に関する組織と連携できたことで子供の安全安心だけでなく自分たちの住んでいる校区の安全について考え、あらたに安全安心なまちづくりへと意識が高まった。

イ 教育研究所との連携による「学校安全講座」

新規採用の教職員や新しく大川市へ赴任してきた教職員を対象に研修会を実施している。今回は、学校事故で子供を亡くされた遺族を講師に迎え研修会を実施した。ご遺族から子供を亡くされた思いや安全についての考えを聞き、学校安全に対しての意識の高まりがみられた。

ウ 行政と大川市P T A連合会との教育懇談会

本年度は、「安全」を協議テーマとして行われた。安全について市内の各学校のP T Aの活動の状況について交流することができ、新たな取組の参考としたり、これまでの取組の改善を検討したりすることができた。

4 取組の成果と課題

【成果】

- 中核教員が実践委員会の研修で学んだことを生かし、各学校の取組の改善につながった。
- 拠点校を中心に、安全に係る関係機関や地域住民と連携した取組が進んだ。

【課題】

- 学校安全実践委員会の取組を通じた中核教員の育成を継続し、各学校の実践の充実を図る必要がある。

福岡県立筑紫中央高等学校

住 所：大野城市中央2-12-1

電 話：092-581-1470

1 子どもや学校、地域の実態

本校は、大正6年に筑紫実業女学校として開校し、今年で創立106年を迎える歴史ある学校である。本年度より学びの場を新校舎に移し、落ち着いた学習環境の中で生徒の自己実現を目指した教育が行われている。大野城市唯一の高等学校であり、大野城市主催の地域イベントやボランティア活動、連携事業を積極的に受け入れ、多くの生徒が参加していることで、地域からの信頼が厚く、寄せられる期待も大きい。

(1) 通学方法と生徒の実態

本校では、通学に自転車を利用している生徒がおおよそ7割在籍している(資料1)。学校周辺は住宅街ということもあり、狭小で交通量の多い道路や踏切といった危険・交通混雑箇所が多く存在している。登下校マナーについて、度々近隣住民や通勤中の方々から御指摘があり、実際に毎年多くの自転車乗車中における交通事故が発生している。早急な対策と改善が必要である。

学 年	1年	2年	3年	合計
在籍生徒数	441	438	388	1267
自転車通学生	319	284	294	897
自転車利用率	72%	65%	76%	71%

【資料1 令和5年度通学手段調査一覧 4月現在】

(2) 事故の形態

交通事故は登校中に多く発生している。発生場所としては交差点が最も多い。通学路の多くは住宅密集地域を通過しており、見通しの悪い交差点が多い。そこを運転する生徒の危険予測能力、及び徐行運転、左右確認といった基本的運転技術の不足が事故の原因になっていると考えられる。

(3) 学校周辺の交通環境

学校周辺は、住宅やマンション、ビルが密集しており、近くには小中学校や商業施設もある。また、西鉄天神大牟田線とJR路線が学校を挟むように通っており、福岡市内(天神・博多)へのアクセスがとてよく、ベッドタウンとして栄え人口が増加傾向にある。

そのため、通学路は交通量が多い上に道幅が狭い複雑な道路が多数存在し、特に雨天時には事故が起りやすい交通環境にある。

2 目標

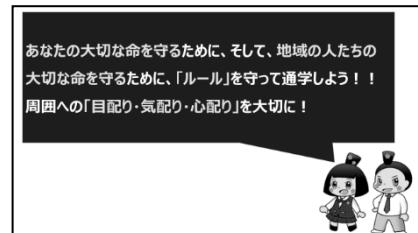
本校生徒の実態と地域の交通環境を踏まえ、生徒に交通ルールやマナーを守ることの大切さを自覚させるとともに、近年の高校生の交通事故の現状や課題を把握し、登下校時の交通事故を減少させるために、以下の目標を設定した。

- ①生徒に道路交通法を理解させる。
- ②登下校ルールやマナーを理解・遵守させる。
- ③大野城市・警察署と連携し、交通安全やマナー・ヘルメット着用に対する意識の高揚を図る。

3 具体的な取組

(1) 4月14日 「筑志」研修での交通安全講習

本校では、新入生に対し今後の学校生活がスムーズかつ有意義なものになるよう新入生オリエンテーションを実施している。その中で、交通指導係職員による登下校中の交通マナー及び自転車乗車マナー(交通法規含む)の説明を行った(資料2)。



【資料2 交通安全講習の説明スライド】

(2) 9月14日 交通安全教室の実施

福岡都市圏筑紫地域共同事業「ちゃりんこ安全プロジェクト」を活用し、スタントマンによるリアルな交通事故の状況を再現してもらった交通安全教室を実施した。また、春日署から講師を招聘し、多くの生徒が集う筑紫地区における交通事故の現状、危険箇所及び危険回避方法の説明を受け、生徒が加害者にも被害者にもならないための行動の仕方を再確認した(資料3)。



【資料3 交通安全教室における事故再現の様子】

(3) 6月・9月 PTA・警察合同「安全下校推進運動・挨拶運動」の実施

下校時、正門付近の密集・混雑しやすい場所において本校生徒が交通安全運動を行った。春日署から交通事故防止のリーフレットやグッズを配付していただくと同時に、DJポリスの呼びかけにより交通安全に関する意識の高揚を図った。

(4) 7月24日 生徒会による交通安全講習

本校生徒会・交通安全委員会主催で生徒対象の交通安全講習を行った。近年における高校生の交通事故事情やヘルメット着用の効果を生徒に説明した(資料4)。



【資料4 交通安全委員による交通安全講習の様子】

4 安全教育アドバイザーの活用

(1) 7月24日 交通安全講習会①

学校安全総合支援事業を活用し、安全教育アドバイザーとして福岡県警察春日署交通第一課長を招聘し、全校生徒対象に交通安全講習会を開催した。

講習会では、学校周辺の危険箇所の説明と対応について講話が行われた。また、今年度本校は福岡県警から「自転車乗車用ヘルメット着用推進モデル校」に指定されおり、ヘルメット着用の有効性についてデータ等を用いた詳しい説明を行っていただいた。

(2) 12月6日 交通安全講習会②

第1回に続き、福岡県警察春日署交通第一課長を招聘し、全校生徒対象に交通安全講習会を開催した。福岡県の交通事故の現状を詳しく解説していただくとともに、事故が発生しやすい「月・曜日・時間帯・環境等」の説明をいただいた。

放課後には本校正門付近で、DJポリスによる「交通マナーアップ」・「ヘルメット着用推進キャンペーン」を行い、生徒の交通安全に対する意識を高める予定であったが、直前に担当者が異動となり、延期となっている。

5 成果

(1) 各取組を終えての生徒の感想

■筑志研修(交通安全講習)を受けて

中学時代は自転車通学ではなかったので、交通法規やマナーに関して知らないことばかりでした。3年間、安全に登下校できるよう心がけます。

■交通安全教室を受講して

スタントマンによる実演を目の当たりにして、改めて交通事故の恐ろしさや悲惨さを実感しました。筑紫中央高校生が関わった交通事故が近隣学校に比べて多いということが分かったので、十分注意したいです。

交通安全教室や交通安全講習会後のアンケート結果を見ると、日常における自分の運転の仕方や交通マナーを振り返ることで、今後より安全な運転に生かそうとする内容のものが大半であり、交通安全を意識させるために一定の成果があったと考える。

(2) 全体を通して

本校の学区内中学校のほとんどが自転車登校を行っていない現状から、本校入学後に初めて自転車で登校する生徒が大半である。そのため、入学初期に安全講習を行うことはルールの確認や交通安全に対する意識の向上に効果的であり、今後も実施したいと考える。

また、定期的には大野城市・春日署・PTA役員と連携した交通安全講習会等を行うことで、交通法規やマナーの再確認のみならず、安全な運転技術の向上につながると考えられる。本取組後は、地域住民からの登下校マナーに関するご指摘の件数は減っており、今年度の累計交通事故件数も11月末現在において減少している。

6 今後の課題

生徒に交通法規や学校・地域のルール・申し合わせを理解させ、大野城市・警察署と連携した講演会等の実施により、危険予知能力をはじめとした基本的運転技術の習得を図ることを目標に各取組を実施した。本事業を通して、その目標は概ね達成されたと評価するが、学校周辺地域においてビルやマンションの建設が継続的に行われており、交通量が増えている地域社会の現状を踏まえると、今後も継続して交通安全指導を行うことが必要であると考え(資料5)。

交通事故0件を目指し、本事業が生徒の交通事故の減少にどのように寄与したのかを検証し、それを踏まえて取組の充実を図っていくことが今後の課題である。



【資料5 継続した登校指導の様子】

福岡県立川崎特別支援学校

住 所：田川郡川崎町大字川崎2343

電 話：0947-72-7788

1 子どもや学校、地域の実態

本校には小学部、中学部の知的障がい有する71名の児童生徒が在籍している。昭和54年(1979年)養護学校義務化の年に開校し、平成31年(2019年)に40周年を迎えた。通学範囲は田川市郡(福智町を除く)となっている。また、学校の敷地内に調理場を有しているため、外部からの給食関係者の来校も多い。校舎は、通勤通学路で野生の動物(鹿・猪など)と遭遇するなど自然豊かな小高い場所に位置している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、保護者及び学校関係者の来校に関する制限が緩和されたのでコロナ禍前のように来校者も増えつつある。コロナ禍では、来校人数の制限や来校者の把握を徹底して行っていたため、不審者をすぐに特定できるなど、しっかりとした対策が可能であった。しかし、多くの来校者が来るようになった状況において、今一度職員の危機管理意識の向上を図らなければならないと考え、児童生徒の安全面の確保並びに不審者侵入対策の更なる強化を喫緊の課題とし、取組を進めることとした。

2 目標

- 警察署担当者及びスクールサポーターからの助言を受けて、校内施設の整備・改善を図り、不審者侵入対応訓練等を実施する。
- 迅速かつ適切に、安全を確保できる実践力を身に付けるとともに、日頃からの危機管理意識を高める。

3 具体的な取組

(1) 9月11日 不審者対策避難訓練(全校児童生徒)における防犯及び安全面への指導・助言
スクールサポーターや警察署員による校舎の構造についての確認及び防犯カメラの位置や昇降口付近の安全面の確認を行い、管理職及び生徒指導主事が助言を受けた。

その後、警察署担当者の協力のもと、不審者への対応訓練を実施し助言を受けた。また、さすまた等を利用した実践練習を行った。

(2) 9月19日 防犯教室(全校児童生徒)に関する指導計画の策定

警察署担当者の協力により、不審者への対応の仕方について、動画視聴による啓発と具体的な対応が学べ

るよう計画を立てた。

4 安全教育アドバイザーの活用

- (1) 本校の現状確認と指導・助言及び今後の訓練等の打合せ

講師：田川警察署 防犯係 中尾氏

期日：8月21日

対象：生徒指導主事、安全教育担当者

内容：モニターの設置状況等本校の状況を説明し、防犯及び安全面について助言を受けるとともに、今後の訓練について打合せを行った。

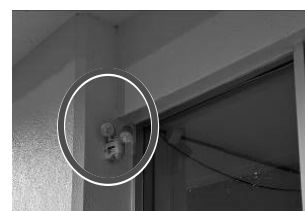


【資料1：校門の施錠①】

【資料2：校門の施錠②】



【資料3：来校者は玄関に立ち寄る】



【資料4：防犯カメラやセンサーライトの複数設置】



【資料5：事務室モニターのチェック】

(2) 不審者侵入対応訓練及び不審者対策避難訓練への協力及び指導・助言

講師：田川警察署 防犯係 中尾氏
他川崎警部交番署員
スクールサポーター 森山氏

期日：9月11日

対象：全教職員及び全校児童生徒

内容：職員の不審者侵入対応訓練を実施した。担任及び教室等にいる児童生徒については、不審者侵入時の対応訓練を行った。また、犯人確保後の避難訓練も行った。犯人役を警察関係者に依頼し、実践的な訓練の中、さすまた等を利用した不審者対応の演習も行った。



【資料6：不審者初期対応】



【資料7：強制退去】 【資料8：さすまた使用】

(3) 防犯教室への協力及び指導・助言

講師：田川市警察署 中村氏 他川崎警部交番署員
スクールサポーター 森山氏

期日：9月19日

対象：全教職員及び全校児童生徒

内容：児童生徒の安全を守るための防犯教室を通して全職員の危機管理能力を高めたり、児童生徒の安全意識を高めたりした。内容が分かりやすいよう視聴覚機器を活用し、児童生徒に質問するなど自分で身の安全を守るには、どうすればよいか等の確認を行った。



【資料9：不審者対応の確認の様子】

ア 児童生徒が不審者に遭遇したときの行動

- ① 大きい声で知らせる。(気付き)
 - ② 怪我をしないよう距離をとる。(安全優先)
 - ③ 大人に相談する。(複数対応)
 - ④ 時間稼ぎをする。(大人・警察が到着するまで)
- イ 職員の対応(これからについて)
- ① 情報の共有を行う。(あらゆる手段を利用して)
 - ② 組織的な対応。(管理職及び関係各所に報告・連絡・相談)
 - ③ 防犯意識を常にもち、高めることができるよう児童生徒の様子について機会があるごとに情報を発信する。
 - ④ 臨機応変に動けるように心掛ける。

5 成果

- 安全対策及び防犯対策について、避難訓練や防犯教室を行うことで様々な気付きを得るとともに、改善点に分かり、より実践的に行えるように見直しをすることができた。
- 実践的な訓練を行うことで、全職員の防犯意識を高めることができた。具体的には、大きな声を出し異常事態が発生していることを実施訓練通り(マニュアル)に行うことによって児童生徒の命が守られることを再確認し、その行動をとることができた。また、複数人で対応することで対応する職員の安全も確保することができた。
- 訓練の様子を動画や写真に撮り、記録として残すことで、事後の研修に生かすことができた。

6 今後の課題

- 防犯対策等に係る経費が不足し、人的な対応に追われている。防犯機器等の設置も視野に入れながらヒューマンエラーが出ないように定期的な対策や点検を行うなど人員配置を行う必要がある。
- 児童生徒を含む訓練を定期的実施し、事前事後の学習を定着させ、緊急時に適切な対応ができるように防犯意識を向上させる。
- 地域及び外部専門家との連携を図り、児童生徒の安全で安心な生活を継続して保障することができるように取り組みを進めていく。

2 関係資料

学校安全総合支援事業モデル地域関係資料

○久山町教育委員会（山田小学校）…P16

○朝倉市教育委員会（杷木小学校）…P20

○大川市教育委員会（川口小学校）…P24

1 単元名 わたしたちの防災

2 指導観

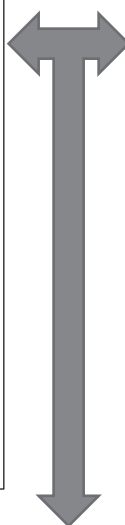
【教材観】

本単元では、自然災害の時に起こる危険に気付くために、防災マップを作成し地域の危険な場所や対策について考える。そして、見いだした課題や危険なことを地域に発信することで防災意識を高めることをねらいとしている。既存のハザードマップへの付加を中心的な活動に設定し、「自分たちも含め、みんなが『使える』マップにすること」をテーマに活動を進めていく。児童は、見いだした課題や改善点を基に地域への取材に赴いたり、防災マップ作成に向け情報を収集したりする。整理した情報を基に、危険箇所や避難場所等を記したハザードマップの作成をする。また、災害時への備えや、災害時にどのような行動をしたらよいかなどを他者に発信できるようにしたい。これらの活動を通し、児童に災害に対する意識や、日頃からの防災に対する意識を高めていきたい。

【児童観】

本学級の児童は、粘り強く学習に取り組み、困ったときには声をかけ合いながら学習を進めることができる。1学期の総合的な学習の時間では、グループ毎に協力しながら課題について調べ、まとめることができた。しかし、各学習に対して受け身である児童が多く見られる。また、自分たちで課題を見いだし解決していこうとする態度にも課題がある。また、学習したことを生活と結びつけたり、他者に発信していこうとしたりすることにも課題がある。学習の中で課題を見いだし、協力し粘り強く学習に取り組み他者に伝える力を高めていかなければならない。

よって本単元では、自ら課題を設定し、協働的に解決していくことや学習したことを他者に発信することに重点を置いた学習を展開していく。



【指導観（方法観）】

単元目標

- 身の回りの危険な箇所等について調べ、ハザードマップにまとめることができる。
- 自分たちでつくったハザードマップについて、他者に伝えることができる。
- 既存のハザードマップから課題を見いだし、使えるハザードマップにするための調べ活動や製作活動に主体的に取り組むことができる。

単元計画（全25時間）

〈見通す段階 2時間〉

先日起こった筑後地方の大雨や、過去に福岡で起こった災害、災害時の各機関の役割の学習を通し、身近に自然災害が起こっていることに気付き、災害への備えとして自分たちに行えることを考える。また、活動の中で3学年時に学習したハザードマップを見て子ども達にとってわかりづらいものであることに気付き、より分かりやすく使いやすいマップを作成しようという意欲をもたせる。

単元のめあて 誰が見ても分かりやすく使いやすいハザードマップを作ろう。

〈実行する段階 20時間 10/20本時〉

誰が見ても分かりやすく使いやすい防災マップにするにはどのようなことを工夫したらよいか考え、グループでの話し合いを通して活動していく。活動をする中で、地域への取材に赴いたり、ICTを活用したりG Tからの助言を得たりしながら防災マップの作成を進めていき、より災害が自分達のこととして捉えることができるようにする。また、作成していく中で、新たな課題を見つけ、改善していくことができるようにさせる。



〈振り返る段階 3時間〉

作成した防災マップを地域の方に見せたり、掲示したりすることで、達成感を味わう。また、作成した防災マップを見せ合うことで、今後も防災意識をもつことができるようにさせる。

3 本時の目標

○大雨が降ったときの学校周辺での避難の仕方を話し合い、よりよい防災マップを作成するための活動の見通しをもつことができる。(思考力・判断力・表現力)

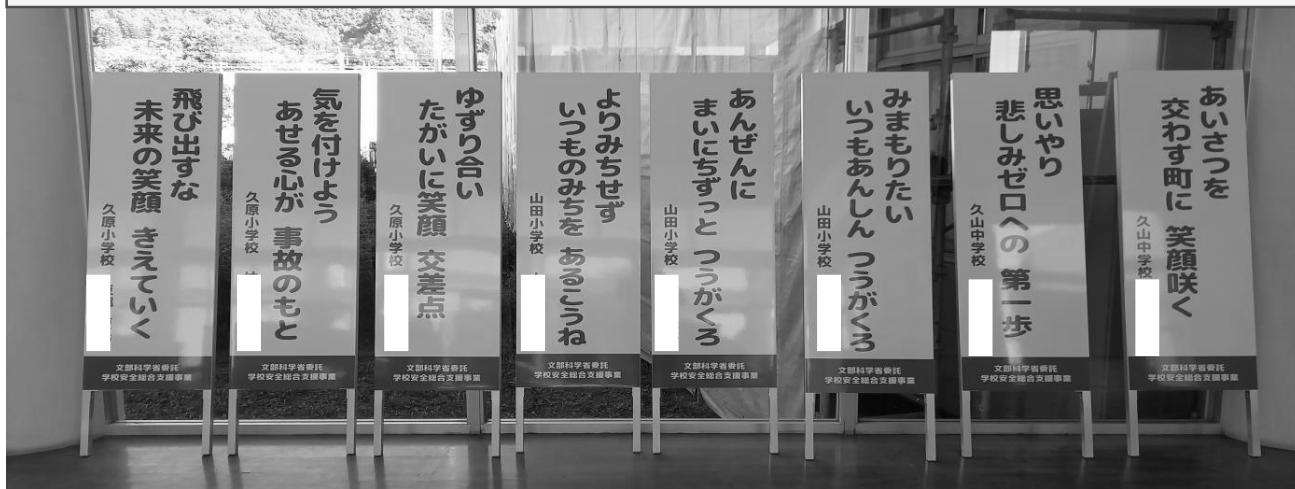
4 本時の展開

段階	学習活動と予想される子どもの反応(・)	教師の支援○と具体的な評価◇						
見通す 10分	<p>1 自分たちが作成した防災マップを見直し、めあてをつかむ。</p> <p>(1) 自分たちが作成している防災マップから、災害時にどこに避難するのか話し合う。</p> <p>◆【自分とのつながり・セルフモニタリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域はどのように避難するのか ・大雨が起こった時には、学校も浸水するから、別の場所に避難した方がよいのかな。 <p>〈めあて〉 大雨が起こった時、どこにどのようにひなんしたらよいか考えよう。</p>	<p>○【自分とのつながり】</p> <table border="1"> <tr> <td>目的</td> <td>本時のめあてをつかむために</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>大雨が起こった際にどこに避難するのかを</td> </tr> <tr> <td>方法</td> <td>グループで確認する</td> </tr> </table> <p>◇ 作成している防災マップから、どこに避難したら良いのかを考えることができる。(記述・発言)</p>	目的	本時のめあてをつかむために	内容	大雨が起こった際にどこに避難するのかを	方法	グループで確認する
目的	本時のめあてをつかむために							
内容	大雨が起こった際にどこに避難するのかを							
方法	グループで確認する							
実行する 25分	<p>2 グループごとに大雨の時にどこにどのように避難したらよいかを発表する。</p> <p>(1) グループで作成した防災マップについてグループ毎に発表する。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>・自分たちのグループは、どしゃくずれの危険があるので、安全なところにひなんをします。</p> </div> </div> <p>(2) 作成した防災マップの称賛や改善点、避難の仕方をGTから聞き、今後の活動の見通しをもつ。</p> <p>◆【他者とのつながり・交流活動】</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>・これからは自分たちの調べた地域から、どのように避難するのかを矢印で書いたりします。</p> </div> </div>	<p>○GTからの話をメモに取らせたり、板書したりして、改善点や工夫する点を再確認することができようにする。</p> <p>○【他者とのつながり】</p> <table border="1"> <tr> <td>目的</td> <td>使えるハザードマップにするために</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>グループ毎の考えに対する改善点を</td> </tr> <tr> <td>方法</td> <td>GTの話等をもとにグループや全体で交流する</td> </tr> </table> <p>◇ GTからの話を基に、これからの改善点や見通しをもつことができる。</p> <p>○ GTからは、児童が考え話し合っていたことに対する称賛や、思考する中で防災意識の高まりが見られることの助言をしてもらえるよう、事前に打ち合わせをする。</p>	目的	使えるハザードマップにするために	内容	グループ毎の考えに対する改善点を	方法	GTの話等をもとにグループや全体で交流する
目的	使えるハザードマップにするために							
内容	グループ毎の考えに対する改善点を							
方法	GTの話等をもとにグループや全体で交流する							
振り返る 10分	<p>3 本時学習をまとめる。</p> <p>(1) 本時学習についてまとめ、これからの活動の見通しをもつ。</p> <p>〈まとめ〉 学んだ避難の仕方を(避難経路を示した矢印で記す)ことで防災マップを作成していく。</p> <p>(2) 本時学習での学びや自己の変容、今後の課題を振り返る。</p> <p>◆【学びのつながり・振り返り活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で地域によって避難の仕方が違うことを知りました。 ・今まで自分たちで作成してきた防災マップに避難の仕方を付け加えて作成したいです。 	<p>○これからの活動の見通しをもつことができるようにするために、GTからのアドバイスを再確認する。</p> <p>○【学びのつながり】</p> <table border="1"> <tr> <td>目的</td> <td>本時での気づきや自己の変容を確認するために</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>本時の学習で分かったことや考えたことを</td> </tr> <tr> <td>方法</td> <td>ノートにまとめたり、他者に伝えたりする</td> </tr> </table>	目的	本時での気づきや自己の変容を確認するために	内容	本時の学習で分かったことや考えたことを	方法	ノートにまとめたり、他者に伝えたりする
目的	本時での気づきや自己の変容を確認するために							
内容	本時の学習で分かったことや考えたことを							
方法	ノートにまとめたり、他者に伝えたりする							

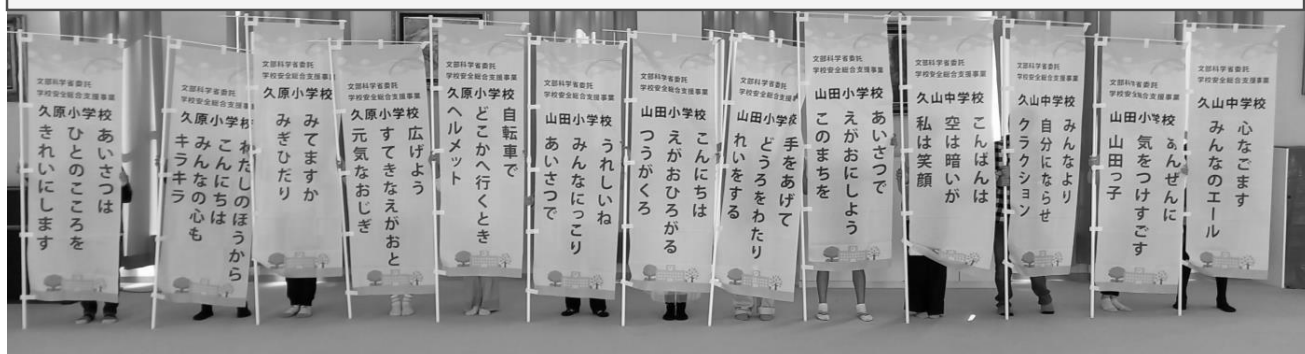
児童・生徒が応募した交通安全標語 の看板やのぼり旗で交通安全啓発



8つの行政区に看板を設置し、児童・生徒の言葉で交通安全を呼びかけることで、地域の方にも交通安全の啓発を図る。



交通安全を呼びかけるのぼり旗を各校5本ずつ作成し、朝の挨拶運動で活用し、児童生徒に交通安全の啓発を図る。



スケアード・ストレート研修

株式会社ワースルによるスケアード・ストレート研修を久山中学校全生徒と久原・山田小学校の高学年児童が受けた。スケアード・ストレート研修とはスタントマンによる事故再現を通して事故の危険性を知り、交通安全意識の向上を図るものです。



自転車の乗り方のマナー



自転車の乗り方のマナー



トラックの巻き込み事故



自転車同士の事故



見通しの悪い交差点の事故



サンキュー事故

【研修後の感想】

- 中学生「研修を受けて、ちょっとでも大丈夫と思っていると事故に遭ってしまうことがわかりました。特に心に残ったのは、自転車が曲がり角で左右が見えないときに、確認せずにこいだらぶつかってしまったシーンです。ぼくも急いでいるときにこういうことがあったので、危険性を改めて感じました」
- 小学生「スケアード・ストレート研修で自転車が吹き飛んだり、スタントマンが車に乗り上がりしたりした光景を見て、死亡事故がどれだけ悲惨なものか学びました。スタントマンの演技を無駄にしないように、自転車の事故に気をつけて、自分も事故にあわないようにしたいです。」

令和5年度 杷木小 防災・安全向上プラン

朝倉市立杷木小学校

【中期目標】

防災・安全に関する知識・理解
地域で起こりやすい災害や伴う危険について理解し、自他の身をどのように守るかについて分かる子ども

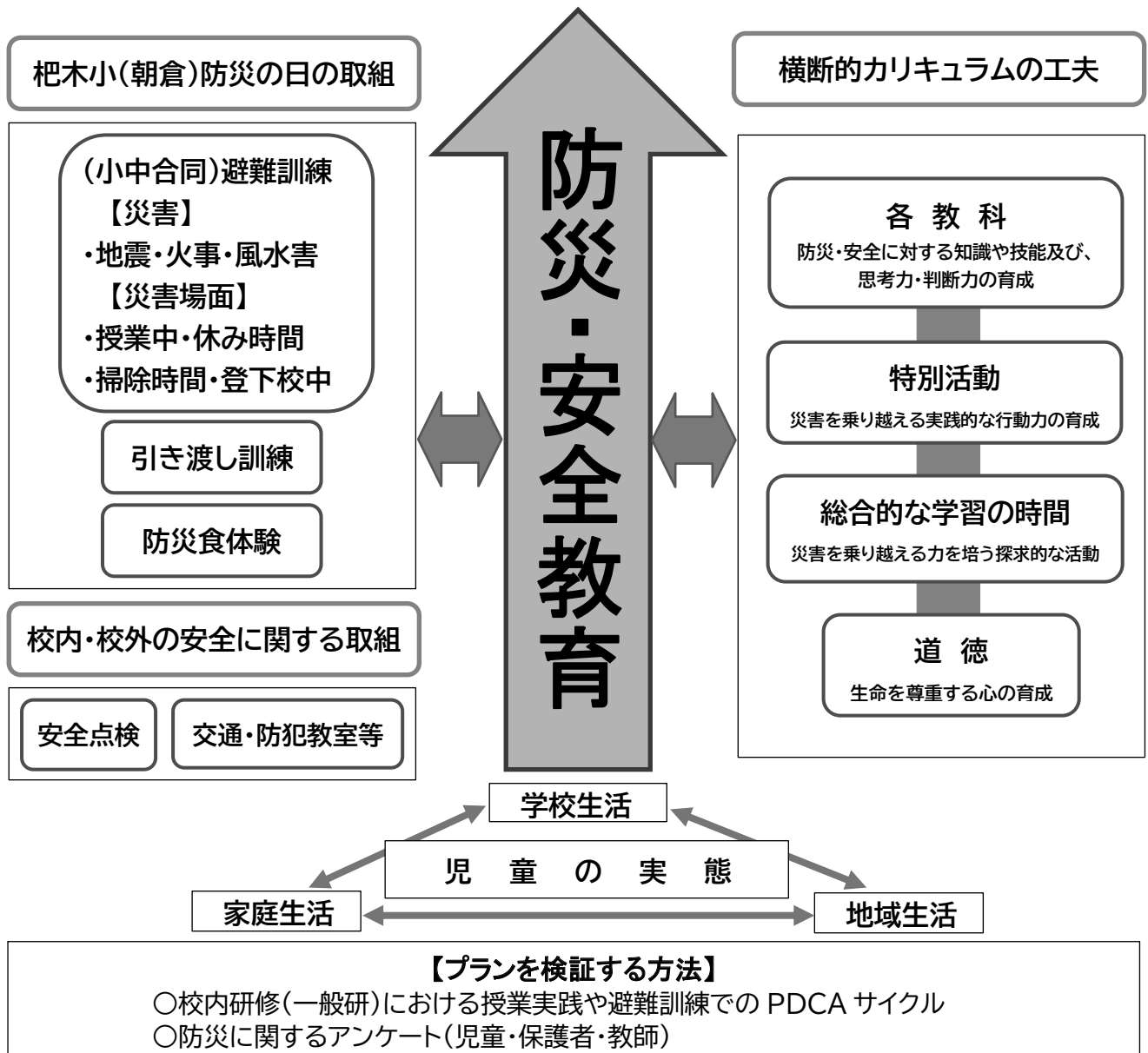
防災・安全に関する判断力
災害時に伴う危険を予測・判断し、自らの安全を確保するための行動がとれる子ども

教職員の防災力の向上
対応マニュアルの中での自分の役割を把握し、適切な意志決定、行動選択ができる教職員

【短期目標】

- 地震・火事・風水害に対する安全避難対策の合い言葉(お・は・し・も・ち)(よ・い・こ)の周知徹底
- 地震・火事・風水害時の安全避難経路・避難場所の適切な瞬時判断力の育成
- 防災・安全教育カリキュラムの作成と授業実践・防災訓練の計画的な実施

〈合言葉〉 「気づき 考え 行動する」実践的防災力アップ!



杷木小学校 防災プログラム

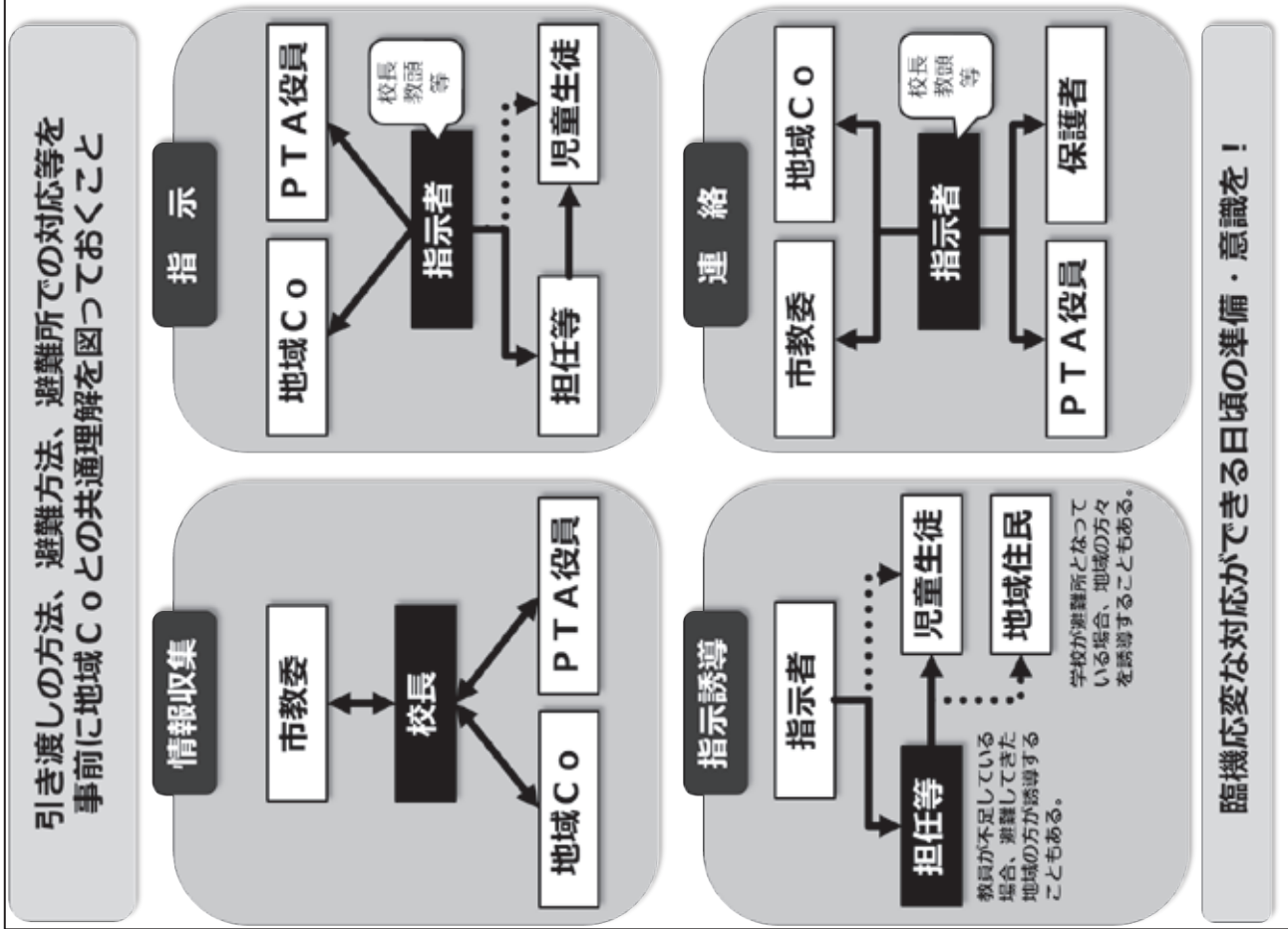
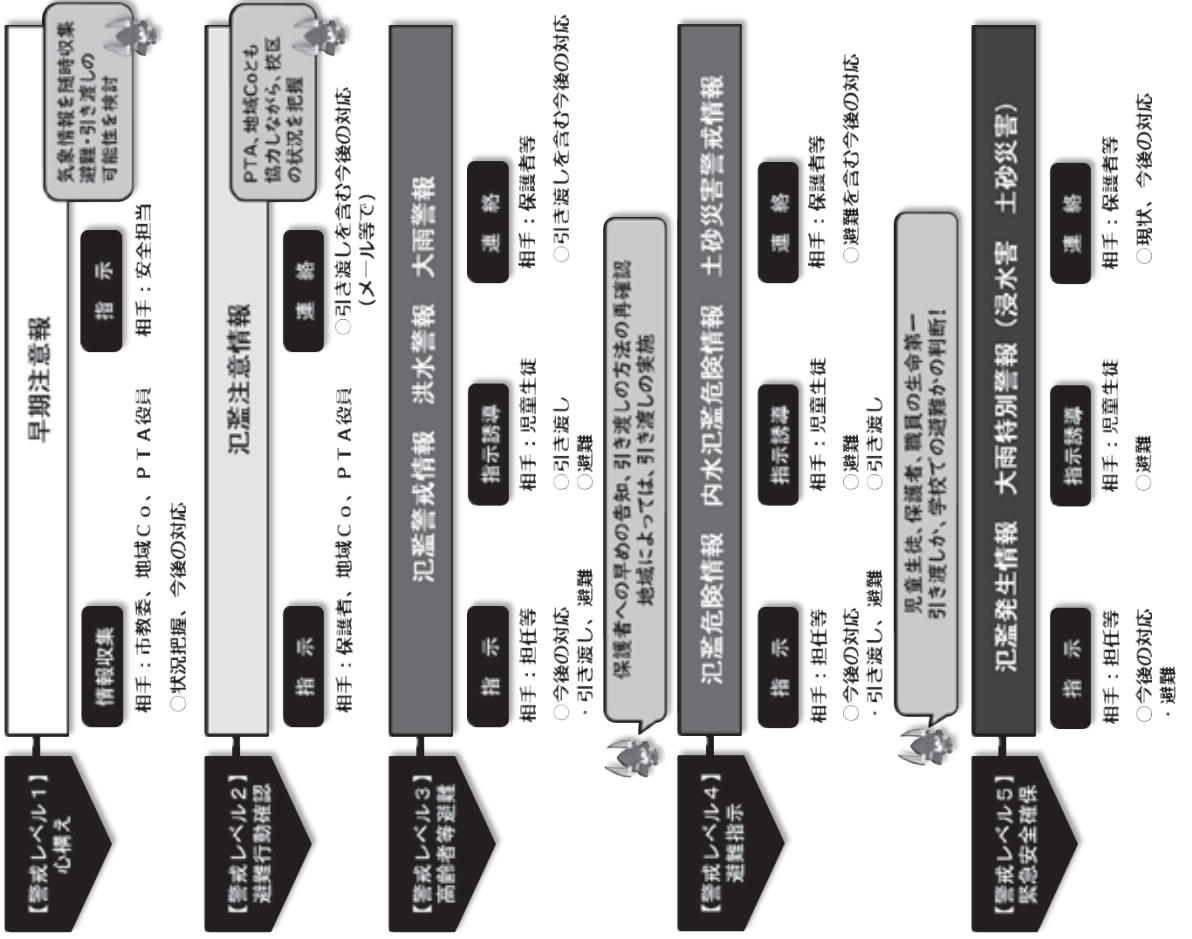
守る	
生命尊重	
道徳	
1年	道徳:ハムスターの赤ちゃん(3月)
2年	道徳:生きているから(3月)
3年	道徳:助かった命(1月)
4年	道徳:かわいそうなぞう(3月)
5年	道徳:命の種を植えた(11月)
6年	道徳:その思いを受け(11月)

備える				
災害の知識	行事等	災害への備え	防災意識・判断力	安全行動
国語・社会科 理科・学活		体育・社会科・学活	国語・社会科・学活	生活・体育・道徳・学活
学活:台風や大雨が近づいてきたら(6月) 学活:火事になったら(10月)			学活:台風や大雨が近づいてきたら(6月) 学活:火事になったら(10月)	生活:なつかやってきた(6月)
学活:台風や大雨が近づいてきたら(6月) 学活:地震が起こったら(10月)			学活:台風や大雨が近づいてきたら(6月) 学活:地震が起こったらどうするの(10月)	
社会:わたしたちのまちと市(4・5月)	毎月5日 避難訓練 杷木小 防災の日	学活:大雨だ、強風だ、かみなりだ(6月) 社会:地いきの安全を守る(10~12月)	学活:休み時間火事になったら(10月)	
社会:自然災害にそなえるまちづくり(9月) 理科:雨水のゆくえ(9月)		社会:水はどこから(7月) 学活:大雨だ、強風だ、かみなりだ(6月)	国語:新聞を作ろう(6月) 学活:休み時間に大地震がおこったら(10月)	学活:こんな時は注意(5月)
理科:天気と情報(2)(7月) 理科:流れる水のはたらき(10月)		社会:国土の自然とともに生きる(2月)	国語:みんなが過ごしやすい町へ(6月)	学活:災害が起こったら(7月) 学活:町の中でぐらっときたら(10月)
理科:土地のつくりと変化(11月)		学活:いざという時に備えて(10月) 家庭:共に生きる地域での生活(1月)	国語:私たちにできること(6月) 社会:憲法とわたしたちの暮らし(4月)	学活:大雨から身を守る(6月) 学活:災害が起こったら(7月)

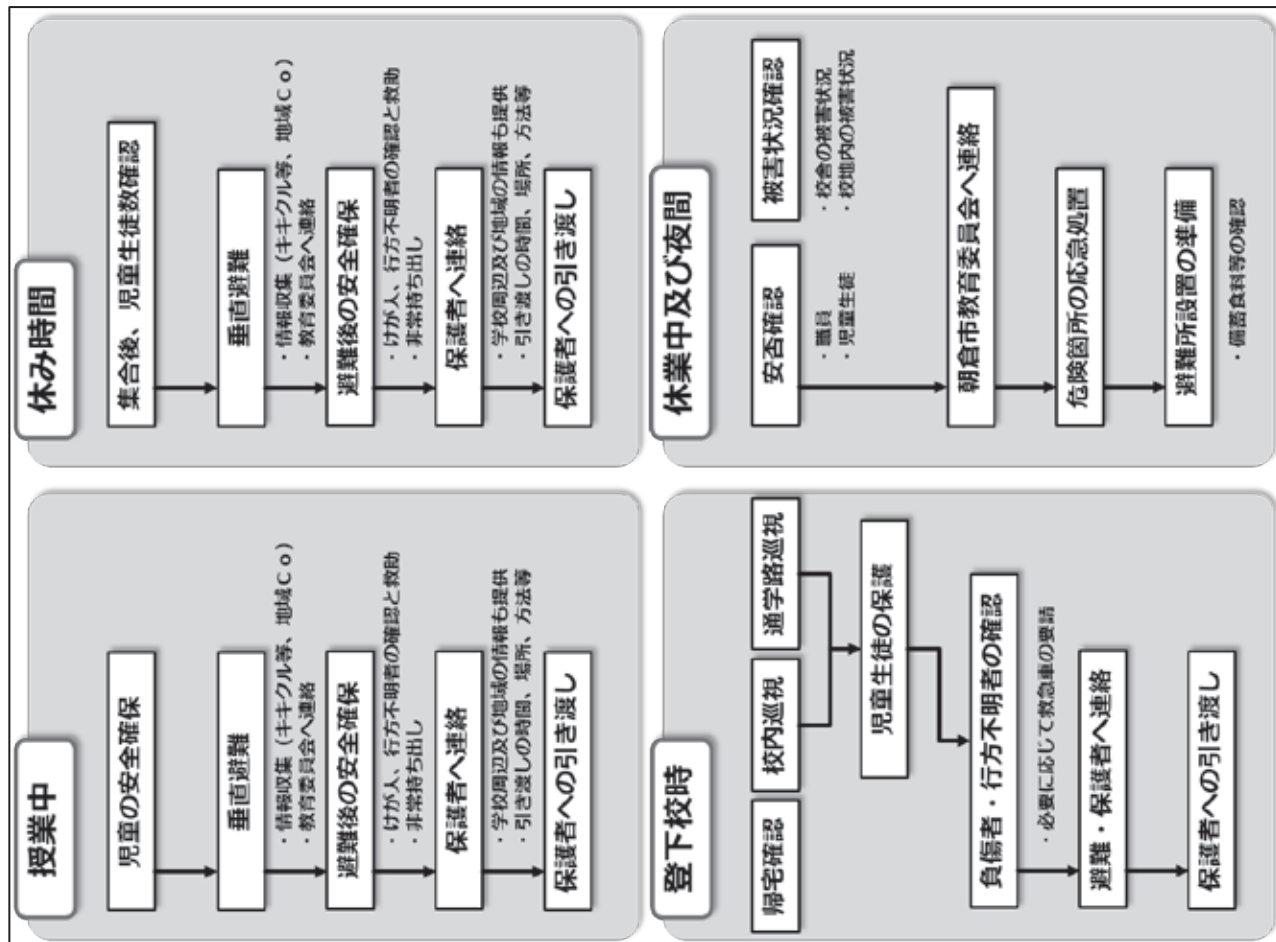
つながる
郷土愛
生活・総合・道徳
生活:がっこうだいき(4・5月)
生活:まちをたんけんしよう(6月) もっとなかよしまちたんけん(10月)
総合:ふるさとじまん発見! I(1学期)
総合:生き方を学ぼう(1学期)
道徳:和太鼓調べ(9月)
総合:生き方を学ぼう(1学期)

朝倉市風水害・土砂災害対応マニュアル

タイムライン



朝倉市風水害・土砂災害対応マニュアル



実効性のある対応マニュアルにするために

被災前

- 避難所での対応の仕方等について共通理解を図る
- PTA役員理事会で確認、引き渡しに来る可能性がある保護者への周知徹底。
- 役割ごとに「手順リスト」を準備し、誰でも役割を果たすことができるようにする。

被災

- レベル3でも、地域によっては状況に応じて「引き渡し」を実施する。
- 地域の方と連携し、避難所での対応、安否確認を継続して行う。

被災後

- SCを活用し、被災した児童生徒に対するケアを確実に行う。

子どもの心のケアのために

文科省のHPより

まもるくん

ふくおか防災ナビ

【ダウンロードはこちらから】

Google Play

App Store

キキクルも登録してリアルタイムな情報収集を！

避難は、早めの判断！空振り覚悟！

危機管理意識を高めるために

教職員の意識を高める

- ①災害の実際を見て、災害の可能性について知る。
- ②タイムラインの掲示 **見える化**
- ③役割ごとの手順リストの作成見直しと定期的な訓練
- ④安全教育の内容を計画的に見直す

児童生徒の意識を高める

- ①タイムラインの作成（低学年は、避難の仕方を確認）
- ②様々な状況を想定した避難訓練の実施
- ③系統性のある安全教育を計画的に実施

自分事として捉えることが、意識を高める上で最も大切なことである。そのための創意工夫を！

		大川小	宮前小	三又小	道海島小	木室小
安全管理	安全点検	○安全点検の実施(毎月1日) ○複数の目で点検 ○タブレットを活用し、問題箇所の写真を撮り、集計後全職員に回覧している。	○月初又は学期初めの日に安全点検を行う。点検を2人1組で行うようにし、ローテーションで点検箇所を変わる。点検項目毎に点検方法や写真等点検結果をタブレットに入力していき、安全担当者が集計をしている。	○点検体制 点検場所を毎月輪番制で実施 ○点検方法 目視・打音・振動・動作・操作など ○集約方法 タブレットでの集約	○環境や行動における重大な危険を見逃さずことなく、学校環境を整備し、子供たちの安心・安全な学びの場を実現する。 ○工夫:2人組、ローテーションによる複数の目で定期点検(タブレット使用)。授業計画段階での日常点検(週案にファイリング)。体育大会等の行事前における臨時点検。児童による安全点検(月1回掃除時間)に実施。学校運営協議会委員・保護者による校舎内の安全点検(学習参観時)。	○職員による月1回の安全点検(2人1組になって場所はローテーションで行う。点検項目は目視、打音、振動、負荷、作動の5つで、場所によって点検の仕方を変えている。異常箇所は写真を撮って全職員で共通理解を行っている。また、異常箇所については、用務員や業者に伝え修理をお願いする。)
	教科指導	○各教科の授業前に教材・教具・器具の使用等における考えられる危険の説明と安全な使い方の指導を行う。特に「図工」カッター・彫刻刀など、「家庭」包丁・ミシン・アイロンなど「理科」薬品・カセットコンロなど「体育」ゴール等の固定器具・マット等の用具など < 全学年・通年 > ○5年体育「けがの防止」(2学期)学校の中でけがや事故の起こりやすい場所を探し、今後どのような行動をすることが実践目標を持たせる。	5年体育「けがの防止」 学校や地域における「けがの起こり方」「けがの原因」「危険を予測すること」の大切さを捉える学習 全学年「図工」はさみ、カッター、彫刻刀の使い方について安全指導を学習の始めに行う 「理科」薬品、コンロの安全な使い方を徹底する。 「家庭科」裁縫、調理器具等の安全な使い方の指導をする。	5年体育「けがの防止」 校内のけがをしやすい場所や事故が起こりやすい場所を調べ、どのように危険から身を守るか考える。 (全学年)事前に必ず安全指導を行う。 「理科」:薬品や実験器具等の安全な使い方の指導 「図工」:はさみ、カッター、彫刻刀などの安全な使い方の指導 「家庭科」:裁縫道具、調理器具等の安全な使い方の指導 「体育」使用する場所、用具等の安全確認、安全な使い方の指導	5年体育「けがの防止」 学校の中でけがや地域において事故が起こりやすい場所を探し、けがや事故を防ぐための行動目標を持たせる。 (全学年)危険を伴う活動時、事前に必ず安全指導を行う。 「理科」:薬品の取扱いや温度計などの安全な使い方の指導。 「図工」:はさみ、カッター、彫刻刀などの安全な使い方の指導。 「家庭科」:裁縫道具、調理器具等の安全な使い方の指導。	5年体育 学校や地域での「けがの防止」 体育【全学年】 ・児童自身の健康状態のチェック ・使用する施設、用具等(マット、鉄棒、ハードル等)の安全確認 ・固定器具等の安全確認(移動式ゴール、防球ネット等) 【理科】薬品や温度計などの実験器具等の安全な使い方の指導 【家庭科】裁縫道具、ミシン、調理器具等の安全な使い方の指導。 ※「週指導計画(週案)」にチェックリストを入れる。[校長]
安全教育	総合的な学習の時間	○5年「誰もが住みよいまちづくり」 だれもが安心・安全に過ごせるかといった視点で、校内を見回り、安心・安全な環境について考える。	総合「安全な生活の仕方」 ①日常生活を振り返り、遊具や廊下、階段等の通り方、運動場の使い方について話し合う。 ②現地の体験や調査活動を通して、危険な行動やその原因、安全な行動について話し合う。 ③これからの安全のめあてについて考える。	安全に気をつけて調査活動・体験活動等を行うことができるよう事前指導を行う。 3年:わくわく発見三又ウォークラリー、三又のすてきを紹介しよう 4年:心のバリアフリー 5年:米から学ぶ私たちの生活「田植え、稲刈り」、自然教室へ行こう 6年:平和をねがって「修学旅行」、未来に向けて「職場体験」	「安全な生活についての学習」 ◇安全な遊具の使い方や、体育館や教室での過ごし方、廊下・階段の通り方について、これまでの生活を見直し、学習課題づくりをする ◇現地の体験や調査活動から危険な行動や原因、安全な行動について考える ◇学校安全期間での取組を振り返り、目標やめあてづくりをする。	「安全な生活についての学習」 ◇安全な遊具の使い方や、体育館や教室、特別教室での過ごし方、廊下・階段の通り方について、これまでの生活を見直し、学習課題づくりをする ◇自分の経験や調査活動から危険な行動や原因、安全な行動について考える ◇各クラスで安全目標を設定する。
	特別の教科 道徳	生命尊重の道徳(全学年) ※1月に実施 1年「たった一つのいのち」 2年「生きることのすばらしさ」 3年「大切ないのち」 4年「大切な命」 5年「かけがえのない生命」 6年「かけがえのない生命」	生命尊重の道徳(全学年) 1年「たった一つのいのち」 2年「生きることのすばらしさ」 3年「大切な命を生かして」 4年「何よりも尊いもの」 5年「生きているからこそ」 6年「人命を守るために努力する」	生命尊重の道徳(全学年) 1年「たった一つのいのち」 2年「生きることのすばらしさ」 3年「大切ないのち」 4年「大切な命」 5年「自分の生活を見直す」 6年「かけがえのない命」	生命尊重の道徳(全学年) 1年「たった一つのいのち」 2年「生きることのすばらしさ」 3年「大切ないのち」 4年「大切な命」 5年「かけがえのない生命」 6年「かけがえのない生命」	生命尊重の道徳(全学年) 1年「いのちがなくてよかった」 2年「ゆきひょうのライナ」 3年「マチヌグスージ いのちのまつり」 4年「走れ江ノ電 光の中へ」 5年「クマのあたりまえ」 6年「命の重さはみな同じ」
安全教育	特別活動 学級活動 児童会活動 学校行事	学校行事 「学校安全の日集会」 1月12日(金)朝の活動から1校時 ・校長先生の話 ・黙祷 ・安全担当の話(学校安全の日の意味について) ・健康委員会による発表「防ごうことができるけがを防ごう」 ・縦割りグループによる掃除場所の安全点検	学校行事 学校安全集会 1月12日(金)朝の活動の時間 ・校長先生の話 ・黙とう ・安全教育担当による「けがの事例をもとにした校内の安全について」の講話※日本スポーツ振興センターの報告資料参照 児童運営委員会 12月の代表委員会 ・「みんながけがをせず、安全にすごせるようにできることを考えよう」を提案し、学級で話し合う	学校行事 学校安全の日集会 1月12日(金)1校時 ・黙祷 ・各学年による校舎内外の危険箇所点検及び地図「安全マップ」の作成・発表 ・安全教育担当によるけがの実態と校内の安全についての講話 ・校長先生の話 ・全児童による遊具等安全点検	学校行事 「学校安全の日」集会 1月12日(金)朝の活動から1校時 ・黙祷 ・校長先生の話 ・安全指導部の話 ・各学年での危険箇所点検 ・委員会の学校の校舎内外の危険箇所点検及び安全な行動についての発表	学校行事 学校安全学習会 1月12日(金)1限目 ・校長の話 ・黙祷(1分間) ・各学年からの発表 ・係の先生の話(「けがの実態や校内の安全」について) 学級活動(2)【全学年】 安全な学校生活 ・保健室利用状況、怪我発生箇所マップ、児童たちによる安全点検などから自分たちの学校生活の在り方について考え、決まりや気をつけることを話し合う。
	その他の教育活動	・朝活動での学年別の安全指導(毎月)(全学年) ・学校、学年便りによる啓発(毎月)	・安全点検の実施 ・学校便りによる啓発 ・朝の会や帰りの会で、安全な生活や命の大切さ等について、適宜話をする。 ・安全担当や教頭から安全な登下校や危険箇所について放送をする。	・月1回の安全点検実施(職員・全児童) ・学習参観時における安全点検(保護者・学校運営協議会委員) ・全児童による安全マップ作成 ・不審者対策のための名札作成・着用(来校者用・保護者用・職員用)	・学校・学年便り・メールによる啓発。 ・安全な生活や命の大切さ等に関する話(朝の会、帰りの会等随時)。 ・長期休業前(夏休み等)の交通事故、水難事故等に関する話(終業式での話、保護者へのメール配信)。 ・不審者対策のための名札(教職員・来校者・保護者)の着用。 ・地域の方による登下校時の見守りの実施。	◇安全点検 ・職員による月1回の安全点検(2人1組になってローテーションで行う。異常箇所は写真を撮って全職員で共通理解を行っている。) ◇安全週間の設定 1月10日(水)～1月17日(火)

田口小	川口小	大野島小	大川桐英中	大川桐薫中
<p>○職員が複数で点検</p> <p>○目視、作動、負荷、振動による確認</p> <p>○修理内容を回覧し、職員に周知</p>	<p>○計画的組織的に実施し、危険箇所を早期発見し適切な措置を講じる。</p> <p>○複数体制で全職員一斉に行う。点検場所は、毎月担当者を替えてローテーションで行う。</p> <p>○児童の目の高さや行動に配慮し「目視・打音・振動・負荷・作動」を行う。</p> <p>○複数の目で確認を行い、写真等を用いて記録する。点検結果の「△」「×」「××」に応じて対応の優先順位をつけ業者、用務員、区域担当者にて対応を行うとともに終礼等で全職員への周知を図る。</p>	<p>○毎月1回、タブレットを用い、安全点検を行っている。</p> <p>○二人一組になって、点検を行い、毎月点検場所をローテーションで変更し、違う人の目で点検できるようにしている。</p>	<p>○(安全点検の方針)点検の実施においては、形式に流れることなく、生徒の目の高さや行動の特徴等に十分配慮しながら行う。</p> <p>○(安全点検のポイント)「目視・打音・振動・負荷・作動等」から原則2つ以上の方法を用いて行う。</p> <p>○(安全点検の工夫)安全点検票を集約後、学校安全係が確認し、教頭へ提出。教頭は、その後の対応を付箋をつけて記録に残すことで、点検後の対応が明確になるようにしている。</p>	<p>○生徒・教職員の危険回避のため</p> <p>○毎月第2週に、全教職員で安全点検表をもとに点検を行う。</p> <p>○生徒の目線から「目視・打音・振動・負荷・作動等」を行う。</p> <p>○点検表をもとに構内図に危険箇所を記し、生徒・教職員に周知徹底する。</p> <p>○緊急を要する場合、教育委員会へ連絡し支持を仰ぐ。</p>
<p>5年体育</p> <p>学校や地域での「けがの防止」</p> <p>・学校の中でけがや事故の起こりやすい場所を調べ、今後どのように危険から身を守るのか実践目標を持たせる。</p> <p>各学年「図工」「家庭科」「理科」「生活」「体育」(通年)</p> <p>・カッター、彫刻刀等学習用具の安全な使い方について指導する。</p>	<p>5年体育「けがの防止」</p> <p>全学年体育</p> <p>◇ボール運動や器械運動等、施設設備の使用等の安全指導</p> <p>◇危険を伴う学習の前に必ず安全指導及び安全点検を行う。例えば、図工(彫刻刀やのこぎり等当の安全な使い方)、理科(薬品の扱い方、温度計や虫眼鏡等の安全な使い方)、家庭科(裁縫道具、調理器具等の使い方)の指導時に行う。</p> <p>※「週指導計画(週案)」にチェックリストを入れる。〔校長〕</p>	<p>5年体育「けがの防止」</p> <p>けがや事故を防ぐための行動目標を持たせる。</p> <p>〔安全な使い方の指導〕</p> <p>「理科」:薬品や温度計など</p> <p>「図工」:はさみ、カッター、彫刻刀など</p> <p>「家庭科」:裁縫道具、調理器具等</p> <p>「体育」:使用する施設、用具(マット、鉄棒、ハードル等)、(固定器具(移動式ゴール、防球ネット等)の安全確認)</p> <p>5年国語科</p> <p>階段や廊下の安全な通り方を全校へ広げる(全校放送)</p>	<p>○日常の授業において安全点検・安全指導をする。</p> <p>○各教科の授業前に教材・教具・器具の使用等における考えられる危険な状況などの説明や安全確保について話をする。</p>	<p>○日常の授業において、みんなが安全かつ快適に日常生活を送り、生命の危機を事前に回避するために必要な安全指導を行う。</p>
<p>4年「防災・減災について考えよう」</p> <p>①日常生活を振り返り、災害の備えをしているかについて話し合う。</p> <p>②災害現場での様子や、過去の大地震における被害を調べて、防災・減災について自分たちでできることを話し合う。</p> <p>③防災・減災について自分たちでできそうなことをまとめ、発信する。</p>	<p>全学年「安全な生活についての学習」</p> <p>◇安全な遊具の使い方や廊下・階段の通り方などについて、これまでの生活を見直し、学習課題づくりをする。</p> <p>◇現地の体験や調査活動から危険な行動や原因、安全な行動について考える。</p> <p>◇学校安全期間での取組を評価して振り返り、標語や作文、プレゼンテーション用スライドなどにまとめる。</p> <p>3年・6年</p> <p>・安全マップを作成し他学年に周知する。</p> <p>4年</p> <p>・廊下の通り方のVR動画を作成し、他学年の児童にも体験してもらい安全な行動について考えるようにする。</p> <p>※12月に実施。</p>	<p>・安全に気をつけて調査活動・体験活動等を行うことができるよう事前指導を行う。</p> <p>3年「みんなにやさしいまちづくり(高齢者の安全)」</p> <p>4年「ふるさとの環境を守ろう(清掃活動)」</p> <p>5年「自然教室に行こう」</p> <p>6年「平和を願って(修学旅行)」</p>		
<p>生命尊重の道徳(全学年)</p> <p>1年『いのちがあってよかった』</p> <p>2年『ゆきひょうのライナ』</p> <p>3年『おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね』</p> <p>4年『走れ江ノ電 光の中へ』</p> <p>5年『クマのあたりまえ』</p> <p>6年『東京大空襲の中で』</p>	<p>生命尊重に関する道徳学習(全学年)</p> <p>※1月12日に実施</p> <p>1年『いのちがあってよかった』</p> <p>2年『インコがしんだ』</p> <p>3年『いたいたいのち』</p> <p>4年『ありがたうのたん生日』</p> <p>5年『おばあちゃんが残したものだ』</p> <p>6年『生きていることが幸せ』</p>	<p>生命尊重の道徳(全学年)</p> <p>1年『いのちがあってよかった』</p> <p>2年『たんじょう日』</p> <p>3年『おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね』</p> <p>4年『走れ江ノ電 光の中へ』</p> <p>5年『おばあちゃんが残したものだ』</p> <p>6年『命の重さはみな同じ』</p>	<p>○道徳(6限目、全校集会後各学級で)</p> <p>・学校安全の日の取り組みを振り返り、安全管理や生命の尊重について感じたことや心にとどめておきたいことについて、用紙に記述する。</p>	<p>「生命の尊さ」について考える</p> <p>・命とむきあう</p> <p>・泣きすぎずはいけな</p> <p>・最後の贈り物</p>
<p>学級活動</p> <p>「田口小安全プラン」を決める話し合い活動</p> <p>学校行事</p> <p>「学校安全の日」集会</p> <p>1月12日(金)1校時</p> <p>・黙祷</p> <p>・校長先生の話</p> <p>・安全に関する指導</p> <p>・各クラスによる「田口安全プラン」取組の発表</p> <p>・集会後、各クラスで安全プラン取り組みの振り返り</p>	<p>学校行事</p> <p>◇学校安全集会</p> <p>1月12日(金)2校時</p> <p>①校長先生の話</p> <p>②黙祷</p> <p>③各学年および体育・整美委員会における安全教育の取組の発表(安全学習で学んだこと、安全点検で考えたこと)</p>	<p>学校行事</p> <p>◇安全集会</p> <p>1月12日(金)朝の活動</p> <p>・黙祷</p> <p>・校長先生の話</p> <p>上記を実施後、各学級で下記の内容を実施。</p> <p>◇学級活動</p> <p>・各学級ごとに行った校内の安全学習や校外の安全学習(下記、その他の教育活動を参照)の記録をもとに、身の回りの安全について考え話し合う。</p>	<p>○特別活動</p> <p>朝の会時に、担任より学級の生徒に対して、「学校安全の日」は安全について考える日であることを伝える。</p> <p>○学校行事</p> <p>全校集会(オンライン)</p> <p>1月12日(金)6校時</p> <p>・黙祷</p> <p>・校長講話</p> <p>・生徒会より</p> <p>・諸連絡</p> <p>○清掃の時間に生徒及び職員で安全点検を行う。</p> <p>○部活動時に生徒及び職員で安全点検を行う。</p>	<p>学校行事</p> <p>○全校集会(オンライン)</p> <p>1月12日(金)1限目</p> <p>・黙祷</p> <p>・校長先生の話</p> <p>・生徒会長の話</p> <p>・各クラスで学校事故の事例を示し、安全に過ごすための事前・事後の危機管理について考える。</p> <p>○安全点検実施</p> <p>・職員と生徒による安全点検実施</p> <p>○1/10に安全点検と危機管理(大川市安全の日)について校内研修を行う。</p>
<p>・定期的な安全点検の実施(毎月)</p> <p>・臨時の安全点検(体育会前や自然災害時)</p> <p>・安全点検日の危険な箇所を発見した場合の児童からの報告</p> <p>・金属探知機を使つての運動場点検</p> <p>【安全週間】</p> <p>1月12日(金)～1月19日(金)</p>	<p>◇安全点検の実施</p> <p>◇体育・整美委員会による安全点検活動</p> <p>◇学校安全取組期間…令和5年12月8日(金)～令和6年1月19日(金)</p>	<p>◇親子による通学路上の安全点検(2月上旬の日曜参観日)</p> <p>⇒結果を学校へ提出・集約</p> <p>◇安全学習(校内)(校外)</p> <p>・各学年ごとに、校内の安全チェックを行う(危険予測、原因、回避、今後の対策について考える)</p> <p>・上記の内容を通学団をもとにしたグループに分かれ、通学路にて行う。</p>	<p>○清掃時間に各区域で生徒・職員共同の安全点検を行う。</p> <p>○日常の部活動において生徒及び職員で安全点検と安全指導を行う。</p> <p>○緊急時に即時対応できるように、緊急時対応マニュアルを各階にファイリングして設置している。</p> <p>○避難経路図を各階に掲示している。</p>	

大川市学校案実践委員会等における学校安全総合支援事業に係る主な取組

～学校安全実践委員会から広がる学校・地域の安全安心～

安全学習授業研究会と協議会

拠点校の提案授業をもとに学校安全実践委員会で各学校の中核教員を中心に安全学習のあり方について協議を行った。また、福岡県教育委員会の指導主事から指導助言をいただき、各学校の安全学習の充実につながった。



安全管理（安全点検）研修会

労働健康安全機構労働安全衛生総合研究所から講師を迎えた。拠点校の安全点検の状況を参観し、それをもとに講師の先生へ質問をしたり助言をいただいたりする研修会を実施した。各学校の安全点検における悩み等も共有する機会になり中核教員にとって自校の安全点検を見直すよい研修会となった。



大川市教育研究所「学校安全講座」との連携

新規採用の教職員や本市へ転任した教職員を対象にした講座を実施した。本年度は、学校事故で子供を亡くされた保護者の話を聞き安全指導や安全管理の重要性、命の大切さについて意識向上を図ることができた。



大川市学校安全実践委員会

<委員の構成>

- ・各学校の学校安全中核教員
- ・拠点校の学校運営協議会
- ・拠点校の校長・主幹教諭
- ・安全に関する地域組織
- ・地域住民
- ・大川市教育委員会

拠点校
(川口小学校)

連携

市内の
小学校

市内の
中学校

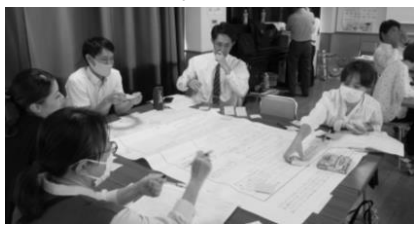
校長会との連携による理科・体育科安全指導研修会

若年教師を対象に理科の安全な観察・実験の指導法や体育科の実技指導における安全な学習の進め方について研修会を実施し、授業に生かすことができた。



大川市学校安全の日の取組について協議

大川市で制定している大川市学校安全の日の取組に向けて実践計画を交流し、中核教員を中心に自校の取組を見直し実践に生かしている。



学校安全リーフレットによる他都市市への広報内容検討会

大川市の学校安全に関する取組を他の市郡へ広げるための検討会を実施。中核教員にとってはこれまでの活動を体系的にとらえる場となった。



大川市の学校安全実践委員会の取組について評価

1年間の活動を振り返り実践委員会の取組について評価し次年度の改善点を明確にする。



安全学習、安全指導の
開発と改善

安全管理の改善

組織活動の拡散
地域と協働した活動の充実

拠点校：大川市立川口小学校における学校安全総合支援事業に係る主な取組

1 安全教育（安全学習・安全指導）

第1学年 学級活動
「休み時間を安全にすごそう(生活安全)
～養護教諭との連携～

養護教諭が積極的に安全学習にかかわっている。この1年生の授業では、保健室のけがのデータなどをもとにヒヤリハット事例を提示し、自らの行動を見直し、安全な生活をするための考えをもつことができた。



第3学年 総合的な学習の時間
「自分たちでつくろう安全をⅠ」(防犯)
～地域の安全を担う人々や組織との連携～

青色パトロールや、見守り隊、110番の家、警察など地域の安全を担う方々の取組や思いを知り、安全マップにまとめ学習したことを広報し安全で安心なまちを自分たちの手でつくっていこうという意欲をもつことができた。



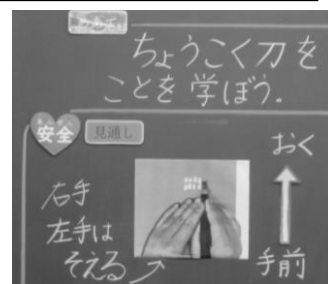
第4学年 総合的な学習の時間
「自分たちでつくろう安全をⅡ」(生活安全)
～ICT機器（VR機器）の活用～

学校の危険箇所を調べ、それを啓発するためのVR映像を作成し、より安全な行動につながるように学校安全の日集会で全校児童に安全に対する意識を広げることができた。



第4学年 図画工作科
「彫って刷って見つけて(版画)」(安全指導)
～安全指導を板書(見通しとふり返し)を位置づけて指導～

見通しの段階に「安全」についてのマークを付け、安全に対する意識づけを行う。学習の最後には、その指導した安全について振り返りの場を設定し安全への認識を高めた。



2 安全管理

専門家招聘による安全管理研修会

実際の安全点検の様子の観察をもとに安全点検方法や安全点検表のあり方について専門家から指導助言をいただく。



PTAによる安全点検

教師の安全点検に加え、PTAによる学期3回、遊具や運動場施設（サッカーゴール等）の安全点検を行う。



3 安全に関する組織的な活動等

青色パトロールと防犯講習

PTAが防犯講習を受講したり青色パトロールによる防犯活動に参加したりして、自らの地域の安全は自分たちで守る意識を高めることができた。



PTAによる
学校安全点検表の確認

来校時に教師による安全点検表を見て質問意見を述べることのできる体制づくりを行っている。



地域の安全組織との連携

地域の安全組織にPTAも参加、会議の中で子供たちと連携した取組を紹介し、いっしょになって学校、保護者、地域が取り組む体制づくりができた。

